

4章 学校の可能性(「地域づくりの核」となる学校)

【大槌町】復興にあたり、ふるさとを継承し、新しいまちづくりにも貢献する人材を小中一貫で育成するカリキュラムを作成予定。また、既にNPOや住民と連携した学習支援を展開。

- 東日本大震災の被害が最も大きかった地域のひとつの大槌町では、現在も仮設校舎での教育が続けられている地域もある。
- 町では、復興の柱のひとつとして、「いわて型コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を掲げている。このなかの具体的な取組のひとつとして、小中一貫でふるさとのよさを伝承し、新しいまちづくりにも貢献する(ふるさとを創生する)人材の育成を目指した「ふるさと科」の展開を構想している。
- NPOと連携し、受験生向けの学習支援も進められている。
- このように、大槌町では、学校づくりを通じたまちづくりを進める構想が計画されており、具体化しつつある。



NRI Copyright (C) 2012 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

大槌町における教育復興の視点

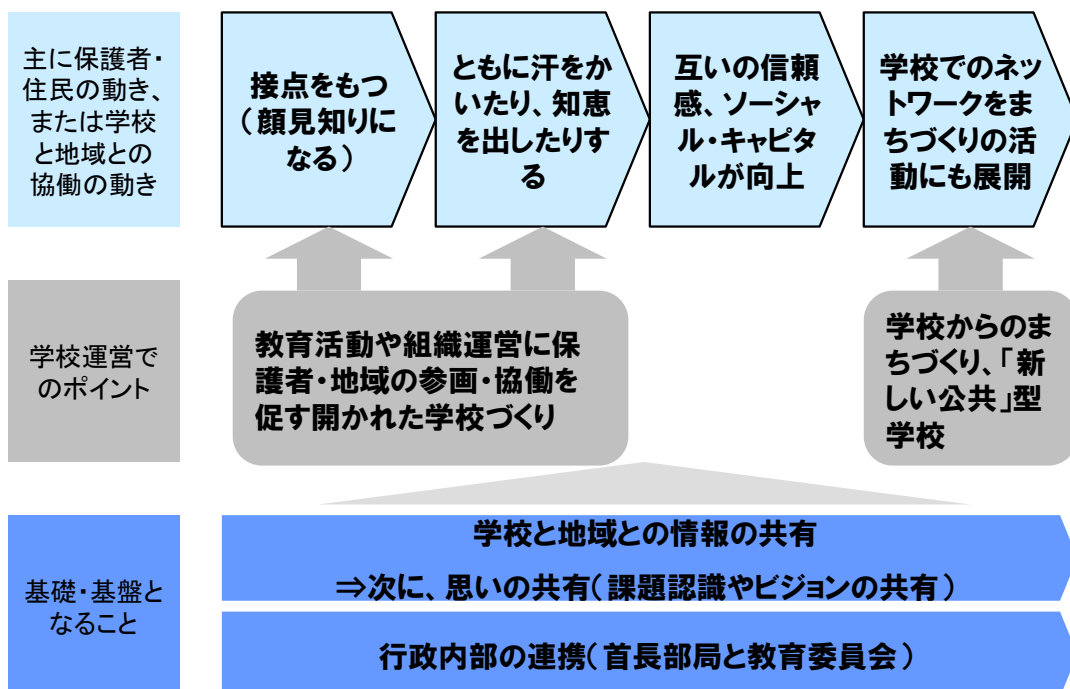
(1) 開かれた学校づくりの見直し

子どもたちに未来を創造し生き抜く力を育むために、保護者や地域住民等が学校と教育活動を共有し、学校運営に積極的にかかわりながら協働する教育を一層推進する。

(2) 「生き方」を基盤とした学校教育のあり方

小・中学校9年間をととした総合カリキュラム「ふるさと科～ふるさとを創り、ふるさとに生きる子どもの育成～」を創設する。「ふるさと科」では、今回の震災津波をとおして我々が直面した「命やものの大切さと人の絆の大切さを受け止め、人としての在り方や自らの生き方を考えみつめること(生きる力)」、「地域復興を目指すふるさとの中で自らの役割や責任を考え、ふるさとを支える担い手になること(ふるさと創生)」といった「生き方」を基盤とした総合カリキュラムによる教育を推進していく。

まとめ



NRI Copyright (C) 2012 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.